



若林地域生活支援ネットワーク会議は、しょうがい者支援に関わる施設や事業所、学校や地域のサポーターとして頑張っている人たちの「顔の見える関係づくり」、「問題・悩みを地域の課題として共有し合える場づくり」、「課題解決に向けたネットワークづくり」を目的に開催しています。

平成20年度第1回若林区地域生活支援ネットワーク会議報告

- 日時 / 平成20年7月18日（金）16:00～18:00
 場所 / 若林区役所6階ホール
 内容 / ・今年度のネットワーク会議・社会資源情報綴について
 ・発表 「地域で生活して今できていること、今後の不安」
 芳賀 康彦氏、郡司 芳枝氏、飯部 かよ氏、氷室 みち子氏、庄子 義氏
 ・グループワークと発表、まとめ
 参加人数 / 63名（41事業所）

今回は社会資源情報綴の更新を行いました。参加事業所により新しい情報をお渡しいたしましたので是非ご活用下さい。また、発表では当事者、ご家族、地域の支援者より、これまでの人生や生活などについてお話をいただきました。しょうがいの特性により困っていることや不安に感じていること、家族の想い、地域の活動など「生の声」を直接うかがうことができました。

《 発表者のみなさんからのお言葉 》

「パソコンを独学で学び、情報などを集めている。ネットワーク作りは大切で地域のネットワークや情報をわかりやすくまとめて発信して欲しい。」「子どもがサービスを利用することが出来て嬉しく思う反面、災害時や自分が高齢になったときの子どもの行く末が心配だ。」「こどもがひきこもりから少しずつ活動に参加できるようになり、親として家族会に参加することでゆとりを持てるようになった。行動療法などの専門家や就労支援の増加、地域の理解が広がるとよい。」「親が高齢になり家事を手伝ったりしたい。仕事、結婚をしたい。」「町内会も高齢化しており、その中で民生委員と協力して地域住民の把握をしたいが目に見えないしょうがいをお持ちの方の把握はできにくい現状がある。災害時にしょうがい者をどう支援できるか準備を勧めている途中である。」などなど、たくさん大切なお言葉がありました！

【 グループワークまとめ 】

【Aグループ】

地域に溶け込んでいくことは、本当に大切なことで求められていることだと感じました。そのためには、色々な分野でネットワークを組んで協力をしていく必要があると思っています。どの地区も七郷のように取り組んでくれたら良いと思いますが、現状はそうではありません。待っているだけではなく、事業所から地域に発信していくことも必要だと感じています。「親子で住める入所施設が欲しい」という生の声を聞いて、それを強く感じました。

実際に事業所から地域へ発信する取組みとして、近くの演劇場と協力して演劇を行ったり、近くの喫茶店に行ったりするなどしています。しかし、現状として、事業所側の情報発信が充分かどうかは分かりません。また、地域とどう関わればよいか戸惑ってしまうこともあることが事実です。

また、家族だけで抱え込まず、同じ悩みを持っている人が悩みを共有できる場が大事であると感じました。そして、その情報共有の場から課題を見つけ、解決方法を探していかなければならないと思っています。

【Bグループ】

事例発表の感想も含め、しょうがい者の方と地域の関わりについて意見を出し合いました。施設側として、地域を意識するよりも本人たちを見てきたと感じています。地域によっては、連携がとれていない、施設側からのアプローチを受け入れてもらえない、しょうがい者に対し理解が得られないなど、格差はあるようです。しょうがい者本人、家族も地域に住みながらも、施設を軸に生活が成り立っている現状があり、地域に溶け込もうともしないのかもしれませんが、町内会など小さな繋がりが大きな繋がりに広がり、いざと言う時に役立つ資源の一つであると考えさせられました。自分たちが住んでいる、活動している地域を意識し見直すことで、また新たな力が加わると思います。

【Cグループ】

当事者とご家族の話を聞いてとても良かったという感想が第一です。利用者が望んでいることを具体的に言ってもらえることで、支援体制作りのきっかけとなるという声が多くありました。地域によってはしょうがい者の施設が建つことを拒まれるような雰囲気もあるそうですが、利用者、施設、地域住民にとって身近で具体的な問題を、1つひとつ一緒に解決していく積み重ねが、生活しやすい地域を作ることになるのではないかと思います。一方、養護学校の先生からは、地域をまたいで養護学校に通っている児童の場合、地域との関わりを持ちにくい、地域で同じ学校を卒業した児童同士のつながりを作れると良いのではないかといい意見が出されました。

また、日頃から「地域のつながりが大事」と言っているものの、自分は自分の住んでいる地域とつながっているだろうか?と考えると、あまり関わりを持っていないことに気づきました。今後、自分自身と地域との関わりも見直したいところです。

【Dグループ】

今回のネットワーク会議は、地域と施設の関係、地域内のつながり等様々なことについて考えることのできる良い機会となりました。

現在は、何となく「施設」と「地域」で分断されて捉えられている傾向があります。しかし、本来は施設も地域の一部分であり、法律などの壁はあるものの施設自体をよりオープンにし、その地域に住む人も気軽に利用できるようにするなど、より地域に溶け込んでいく必要があるという意見が多くありました。そのためにも、私たち援助者も町内会をはじめとする地域ごとの「地域性」を十分に理解し、地域との「つながり」を深めていけるよう意識しながら業務に携わっていくことが重要であると感じました。

当事者や家族の方々の自らの体験に基づく発表に、私たちは非常に勇気づけられるとともに今後の課題についても認識・共有することができました。今後もこういった機会を通じ、ネットワークを形成していきたいと思いました。

【Eグループ】

発表者の方々の中で当事者やそのご家族と同様の視点から、身近に感じる事ができたという感想がありました。地域で共に活動する仲間として、こういった実感をつかめる場として今後も皆様にネットワーク会議をご活用いただくと徐々に地域にもネットワークが根付くのではないかと感じました。また、支援する側としてお互いがつながっている事が重要であるとの意見をいただきました。日常からの連携はもちろんのこと、特に災害や病状の急変など緊急時に地域のネットワークを活用する場面を想定しておくことが必要であると感じました。

地域で暮らす方々がつながっていくためには、一人一人が前向きに生活をしていくことであると、今回、発表者の方々から学んだように思います。一人の声がもう一人の協力者を呼び、その協力者の声が更なる協力者を呼ぶ。ネットワーク会議において、お互いに顔を合わせ交流することによって、声を掛け合いやすい関係になり、少しずつでも地域で有効なネットワークを形成していけるような場をもてるよう皆様とこれからも話し合っていきたいと思いました。

【Fグループ】

Fグループでは、『親の立場での不安』という内容が中心でした。Fグループメンバーは所属・立場がさまざまでしたが、ご自身もしょうがい児の親という立場の方もいらして、各成長段階に応じた本人・親への支援という点でお話いただきました。事業者の方からも、「成長・発達していく段階で迷いや不安が当然生じてくると思う。我々のご家族と一緒にその段階に応じた解決策を具体的に考えながらサポートしていければと思う」という意見も上がっていました。また、防災面の意見も多数出されました。避難場所や避難経路の問題、地域に暮らしている『災害弱者』と言われる方々の実態把握、施設・事業所間の情報共有など課題は山積しています。これまた親の立場で大いに不安を感じるころだと思えます。今年度のネットワークの中でも、この話題についてより掘り下げて検討していければと思います。

勉強会開催のお知らせ！！

テーマ『大規模地震発生！その時あなたは？利用者は？』

各事業所、しょうがい分野でそれぞれ作られている災害対応マニュアルを用いて、災害発生時の支援の現状と課題を2回シリーズで検討します。

日 時：① 9月30日(火) 15:00～17:00 会場：若林区中央市民センターセミナー室A・B

② 10月 9日(木) 15:00～17:00 会場：若林区中央市民センターセミナー室A・B

* 詳細、お申込につきましては別紙の「勉強会のお知らせ」をご覧ください。



発行者：若林区地域生活支援ネットワーク会議 事務局

佐藤 (若林区役所障害高齢課 282-1111) / 山口・檜山 (ピボット若林 282-4671)

伊師・吉田 (若林区社会福祉協議会 282-7995) / 樋口 (びあら若林 282-5188)

鴻野・森 (ほわっと・わたげ 285-3531) / 丸山 (ハンズ太白 308-8834)

野呂 (仙台市立病院 266-7111) / 伊藤 (てれんこ 716-8152)